

平成20年度研究調査報告

- 1 修学旅行の実施概況調査
- 2 修学旅行の課題調査
『教科等との関わり方について』

平成21年3月

財団法人 全国修学旅行研究協会

目 次

調査研究のねらい	1
調査対象校及び回答数	1
平成20年度修学旅行実施状況	2
1. 実施の状況	
2. 実施の時期	
3. 実施日数	
4. 実施方面	
5. 連合体の利用	
6. 旅行費用	
7. 修学旅行での体験学習	
修学旅行実施旅行会社の選定	4
1. 旅行会社の選定	
1 - 1 選定方法	
2. 旅行会社を選定するとき、主に留意した内容・条件	
修学旅行と教科等の関わりについて	5
1. 修学旅行と「教科や他の教育活動」との関わり	
2. 関わりをもたせたもの	
2 - 1 関わりをもたせた教科	
3. 総合的な学習の時間以外で、具体的な取り組み	
4. 総合的な学習の時間と関わりを持たせた学習内容	
修学旅行と教科等との関わり方について	7
(具体的な取り組みの内容)	
修学旅行全般について、お気づきの点	16
「輸送等」	
「企画・実施等」	
まとめ	20

調査研究のねらい

修学旅行は特別活動の学校行事「旅行・集団宿泊的行事」に位置づけられる。学習指導要領によれば特別活動の目標は「望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。

また、旅行・集団宿泊的行事の内容は、「平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活のあり方や公衆道徳などについて望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」とある。

各学校においては、修学旅行のねらいや修学旅行で育てたい能力を明確にして、活動の充実を図ることが求められる。

今年度はこれらをふまえ(昨年度は修学旅行の事前学習・事後学習の状況の研究)、修学旅行と「総合的な学習の時間」の関わりや各教科との関わりについて、主な取り組み内容を調査研究する。これまで、「総合的な学習の時間」を利用して修学旅行の学習を教科横断的に進めてきた学校が多く見られたが、「総合的な学習の時間」は縮減し、特別活動の時間も少ない中、今後、道徳の時間をはじめ、他教科とも十分関連を図った指導を実践していくことが必要になってくる。

本調査においては関東・東海・近畿の三地区公立中学校における修学旅行の実施状況と、修学旅行と教科等の教育活動内容について学校の生の声をまとめ、今後の活動に生かせればと考える。

特に、各教科の中で「どのような学習内容が展開されているのか」について、今後の学習指導計画を作成していく上でひとつの目安として活用できると考えられる。

調査対象校及び回答数

(校・%)

	関東	東海	近畿	合計
対象校数	1,381	779	1,043	3,203
回答数	1,265	743	1,009	3,017
回答率	91.6	95.4	96.3	94.2

- (1) 調査対象 関東5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)、東海3県(岐阜・愛知・三重、但し愛知県は県中学校長会調査データを使用)、近畿2府4県(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山、但し、京都市、大阪市、神戸市は除く)
- (2) 調査時期 平成20年6月～11月
- (3) 調査方法 アンケート記入式

平成20年度修学旅行実施状況

1. 実施の状況

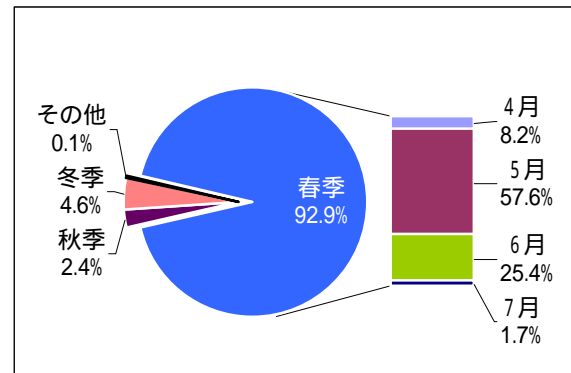
ほとんどの学校で修学旅行が実施されている。「実施しなかった」と回答した学校のうち、東海地区の一部では修学旅行に代わるプランとして海外研修をおこなっている。関東地区では修学旅行を実施していない学校もある。

(校)				
	関東	東海	近畿	計
実施した	1,262	736	999	2,997
実施しなかった	3	7		10
合計	1,265	743	999	3,007

2. 実施の時期

93%近い学校が春季に実施している。中でも5月・6月にその84%が集中している。次いで冬季の実施が4.6%、秋季2.4%であった。冬季の実施は第2学年で行われている。

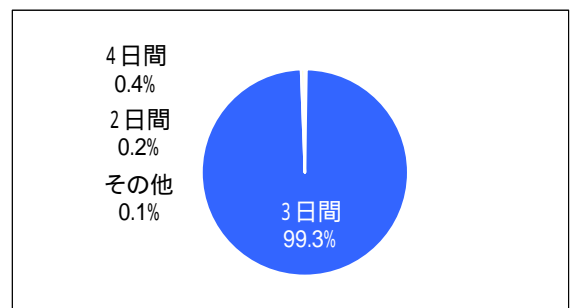
(校)				
	関東	東海	近畿	計
4月	54	35	156	245
5月	696	421	605	1,722
6月	344	259	156	759
7月	49	3		52
8月	2			2
9月	22	4	1	27
10月	1	9	29	39
11月		2	3	5
12月	12			12
1月	19		4	23
2月	57		34	91
3月	4	1	8	13
未記入・その他	2	2	3	7
合計	1,262	736	999	2,997



3. 実施日数

ほとんどの学校が2泊3日で実施している。東海地区の3泊4日での実施校は三重県で、車中泊(バス・船中)を伴う学校や沖縄3泊、東京3泊の学校である。関東地区の7～8日間は海外研修を行っている。

(校)				
	関東	東海	近畿	計
2日間	4	1		5
3日間	1,254	724	999	2,977
4日間	1	11		12
7日間	1			1
8日間	1			1
未記入	1			1
合計	1,262	736	999	2,997



4. 実施方面

関西方面37.8%と関東方面32.1%が多く、この2方面で約70%を占める。次いで、沖縄方面が11%、北陸信越方面7.4%、九州方面5.2%である。

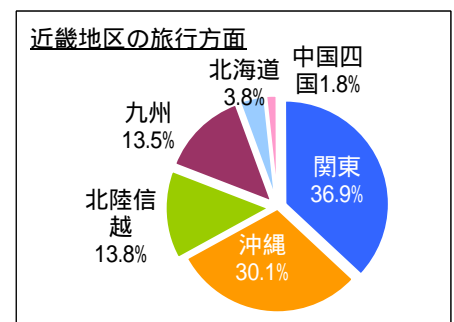
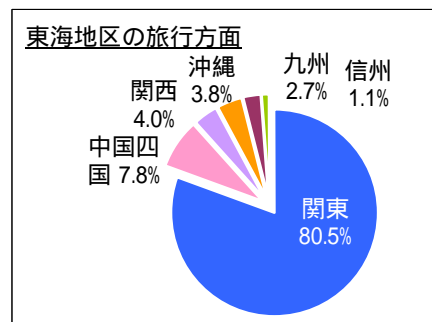
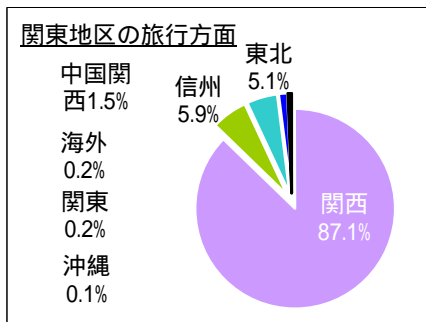
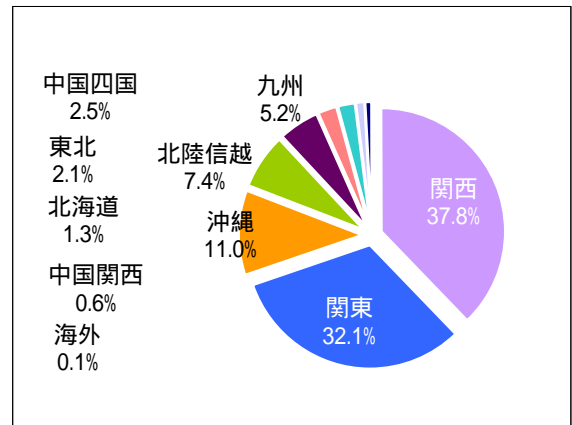
関東地区は関西方面が87%と最も多い。次いで信州方面5.9%、東北方面(会津地方が多い)5.1%と3方面に大別される。

東海地区は、関東方面(伊豆・箱根・富士と東京を組み合わせたコースが多い)が80.5%と最も多い。次いで中国四国方面(広島方面が多い)が7.8%と続き、関西方面4%と沖縄方面3.8%が拮抗している。

近畿地区は、関東方面36.9%、沖縄方面30.1%とこの2方面で67%を占める。次いで北陸信越方面13.8%と九州方面13.5%が拮抗している。

(校)

	関東	東海	近畿	計
北海道			38	38
東北(会津・日光含)	64			64
関東・富士・伊豆	3	587	368	958
北陸・信州・信越	74	8	138	220
関西	1,099	29		1,128
中国・四国		57	18	75
中国・関西	19			19
九州		20	135	155
沖縄	1	28	300	329
海外	2			2
その他・未記入		7	2	9
合計	1,262	736	999	2,997

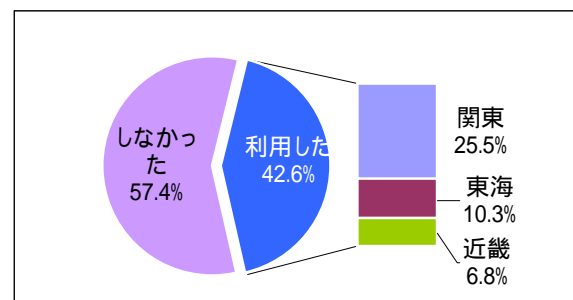


5. 連合体の利用

連合体の利用は42.6%で、そのうち関東地区の利用の比率が高い。(注)各地区での連合体の利用率は当アンケート調査とは異なる。

(校)

	関東	東海	近畿	計
利用した	764	309	203	1,276
しなかった	498	427	796	1,721
合計	1,262	736	999	2,997



6. 旅行費用(生徒一人当たり平均額・体験活動費を含む)

利用交通条件や実施の方面・内容により各地区で異なる。下表は参考として提示した。

(校)

	関東	東海	近畿
最高額	86,000	90,000	98,226
最低額	32,000	21,750	17,947
平均額	57,569	58,027	58,220

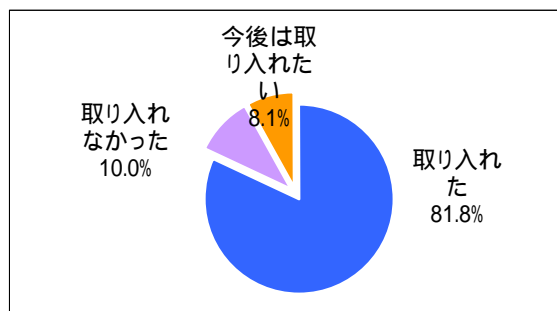
東海地区は岐阜県・三重県のみでのデータによる。

7. 修学旅行での体験学習

体験学習を取り入れた学校は81.8%であった。「今後は取り入れたい」とした学校を含めると89.9%にのぼり、体験学習は学校に概ね定着している。

	関東	東海	近畿	計
取り入れた	1,019	556	846	2,421
取り入れなかった	90	171	36	297
今後は取り入れたい	130	9	102	241
未記入	23		15	38
合計	1,262	736	999	2,997

「今後は取り入れたい」項目のデータに愛知県は除く。



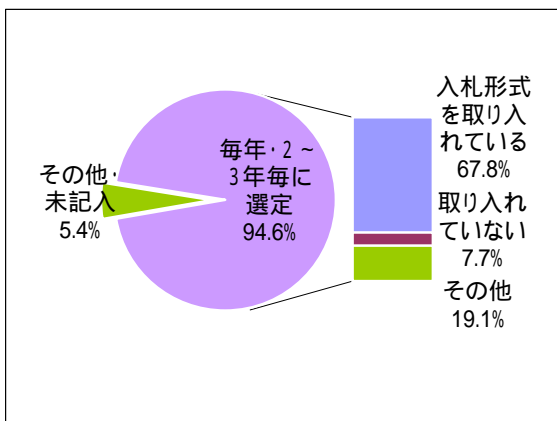
修学旅行実施旅行会社の選定

94.6%の学校が「毎年ないしは2～3年毎」に選定を行っている。選定を行うにあたり67.8%が入札形式をとっている。選定にあたり主に留意した内容・条件は、最も多かったのが金額であり、次に宿舎と旅行会社から示される企画内容となっている。そして安全性という4つが大きな条件となる。その他、プレゼンテーション能力やきめ細やかな対応能力、企画力等大きな要素となっている。

(注)選定方法1-1については岐阜・三重県のデータが不足しており、「入札形式を取り入れている」比率は高くなる。

1. 旅行会社の選定

	関東	東海	近畿	計
毎年選定する	1,001	541	762	2,304
2～3年ごとに選定	177	144	202	523
その他	61	51	26	138
未記入	23		9	32
合計	1,262	736	999	2,997



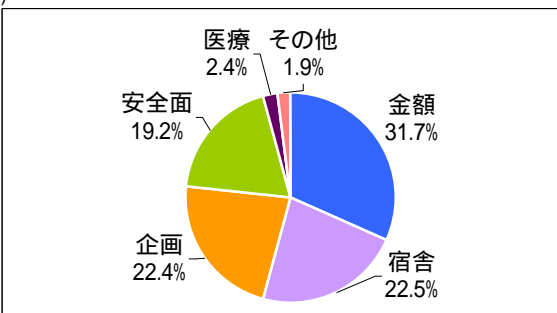
1-1. 選定方法

	関東	東海	近畿	計
入札形式を取り入れている	967	339	842	2,148
入札形式を取り入れていない	90	64	91	245
その他・未記入	205	333	66	604
合計	1,262	736	999	2,997

東海地区は岐阜県・三重県のデータ不足のため「その他」に加えた。

2. 旅行会社を選定するとき、主に留意した内容・条件 <複数回答> (校)

	関東	東海	近畿	計
金額	1,076	562	-	1,638
安全面	700	292	-	992
企画	623	538	-	1,161
宿舎	906	256	-	1,162
医療	107	16	-	123
その他	55	42	-	97
合計	3,467	1,706	-	5,173



その他内容

- ・添乗員の資質(人柄・対応能力・信頼)
- ・プレゼンテーション、アンケート
- ・きめ細かなサービス
- ・添乗員の数、事前学習資料等の用意
- ・資料の量
- ・体験学習受け入れ先との交渉、班別体験学習の企画
- ・電車(私鉄)の確保
- ・計画段階での企業からの派遣
- ・本校の教育活動を理解した上で支援できるかどうか

- ・固定
- ・地元業者
- ・数年変えていない
- ・前年度からの引継ぎ
- ・総合的に判断
- ・タクシー会社

修学旅行と教科等の関りについて <愛知県は除く>

1. 修学旅行と「教科や他の教育活動」との関わり

(校)

	関東	東海	近畿	計
関わりをもたせた	1,201	331	928	2,460
もたせなかった	30	2	50	82
未記入			21	21
合計	1,231	333	999	2,563

修学旅行と教科との関わりについては、それぞれの学校が独自の工夫を凝らして実施されていることがうかがえる。関わりをもたせなかった。あるいは空白であった学校が約3%あったが教科にきちんと位置づけて学習をすることが大切である。

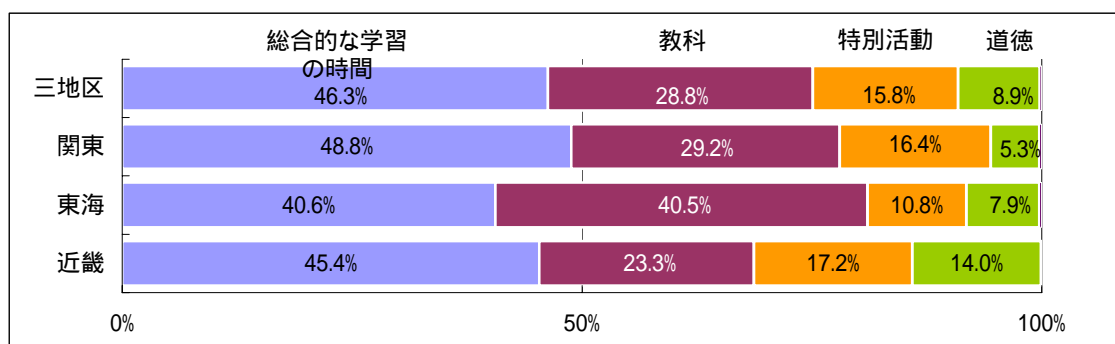
2. 関わりをもたせたもの

<複数回答>

(校)

	関東	東海	近畿	計
教科	680	316	420	1,416
道徳	123	62	252	437
総合的な学習の時間	1,138	317	816	2,271
特別活動	383	84	310	777
その他	6	2	1	9
合計	2,330	781	1,799	4,910

修学旅行のための学習の位置づけとして5割近くが「総合的な学習の時間」に位置づけ、最も多い。その他には、教科や道徳、特別活動の中に位置づけて実施されている。「総合的な学習の時間」の中では具体的にどのような内容で取り組まれているのか、3の別紙を参照。



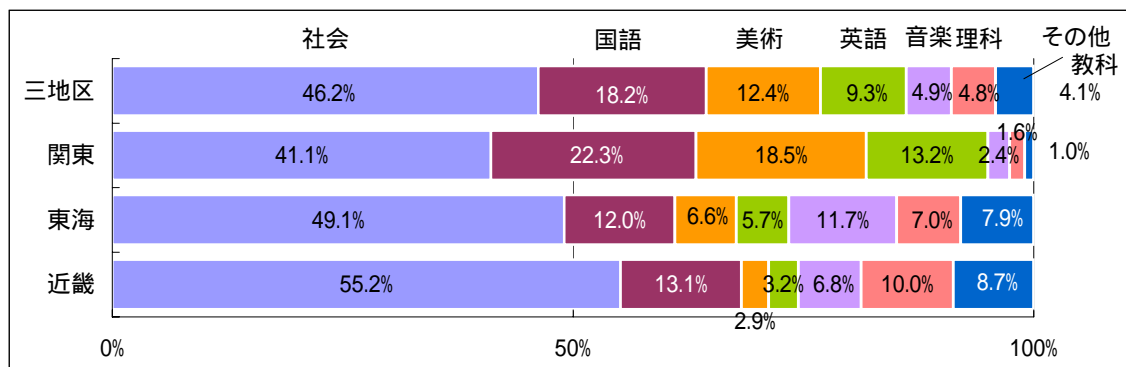
2 - 1. 関わりをもたせた教科

<複数回答>

(校)

教科	関東	東海	近畿	計
国語	300	38	89	427
数学	4	2		6
社会	554	155	374	1,083
理科	22	22	68	112
英語	178	18	22	218
音楽	32	37	46	115
美術	249	21	20	290
保健・体育	4	10	41	55
技術・家庭	5	13	17	35
特別活動			1	1
合計	1,348	316	678	2,342

最もかかわりを持たせている教科は三地区とも社会科が圧倒的に多く、次いで、国語となっている。社会と国語を合わせると65%となり、他教科を圧倒している。伝統文化・芸術との関連から、美術とのかかわりの大きさも頷ける。また、関東地区の中学生が京都での生きた英会話を楽しみにしていることも数字から伺える。修学旅行を通して合唱曲作りに取り組んだり、自然観察や環境学習に取り組む様子もみられた。



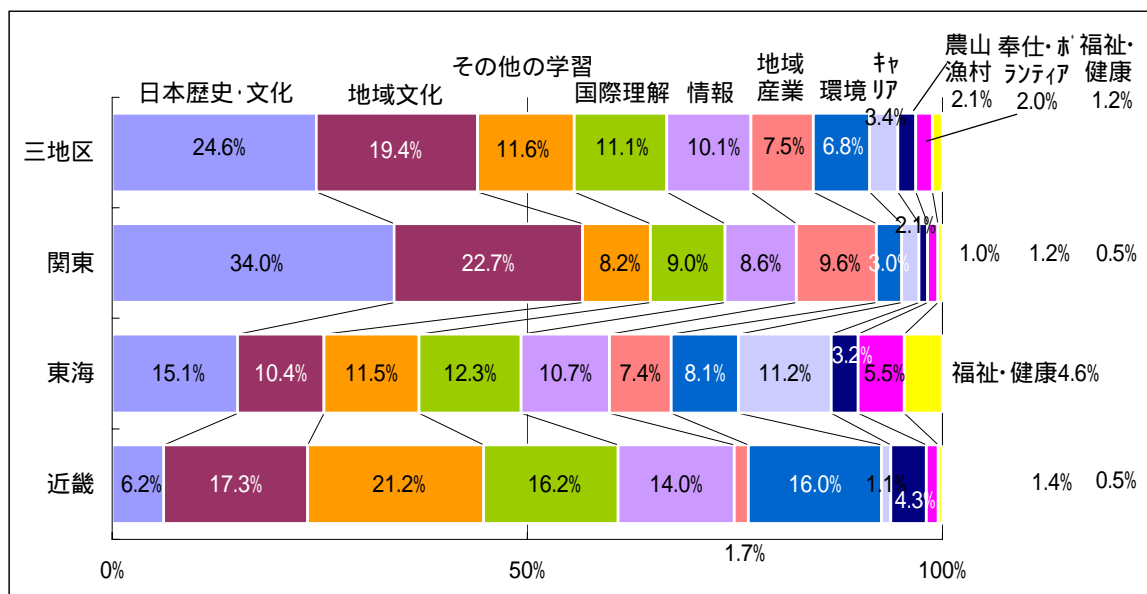
3. 総合的な学習の時間以外で、具体的な取組みは別紙

4. 総合的な学習の時間と関わりを持たせた学習内容

<複数回答> (校)

学習内容	関東	東海	近畿	計
国際理解学習	240	91	159	490
情報学習	230	79	137	446
環境学習	81	60	157	298
奉仕・ボランティア活動	33	41	14	88
福祉・健康学習	14	34	5	53
農山漁村の学習	28	24	42	94
地域文化の学習	607	77	170	854
地域の産業学習	258	55	17	330
日本の歴史・文化学習	909	112	61	1,082
キャリア学習	56	83	11	150
その他の学習	219	85	208	512
合計	2,675	741	981	4,397

「総合的な学習の時間」での学習内容は、学校毎に目的も異なり、学習内容も異なってくるが、左表からも分かるように、行き先の違いが学習内容に反映している。関東地区では約90%の学校が関西方面ということで、「日本の歴史・文化学習」が圧倒的で、東海、近畿地区の学校の場合は行き先が広範囲に渡り、学習内容もそれぞれの地域にあった内容になっている。キャリア学習に関しては、この3～4年の間に取り入れられてきた内容であり、以前はなかった学習内容である。



<参考>

総合的な学習の時間と関わりをもたせた学習内容

学習内容	関東		近畿	
	H15年度	H20年度	H17年度	H20年度
国際理解学習	10.1%	9.0%	7%	16.2%
情報学習	9.1%	8.6%	9%	14.0%
環境学習	3.8%	3.0%	11%	16.0%
奉仕・ボランティア活動	1.6%	1.2%	1%	1.0%
福祉・健康学習	1.5%	0.5%	1%	0.5%
農山漁村の学習	1.4%	1.0%	2%	4.3%
地域文化の学習	24.6%	22.7%	19%	17.3%
地域の産業学習	11.6%	9.6%	9%	1.7%
日本の歴史・文化学習	34.1%	34.0%	16%	6.1%
キャリア学習	-	2.1%	-	1.1%
その他の学習	2.3%	8.2%	22%	21.2%

修学旅行と教科等との関わり方について

3. 別紙 (総合的な学習の時間以外で、具体的な取り組みについて)

「社会」

関東地区

教科名	(主な内容)	事前学習	事後学習
1. 社会	奈良・平安時代の特色を調べる		
	飛鳥、天平、奈良、平安時代		
	古都を調べる(神社、仏閣の歴史調査)		
	飛鳥、天平文化、平安時代の国風文化の復習より見学地の事前学習		
	平城京、平安京の成り立ち、聖徳太子の政治(法隆寺)		
	仏像の違いなど見学ポイントについてプリント作成		
	東大寺南大門の修復に学ぶ		
	日本の歴史と伝統文化		
	幕末の歴史について		
	歴史調査(幕末、明治維新)		
	伝統工芸、地域文化について		
	伝統的建造物群の保存と街づくり		
	文化遺産、世界遺産について(を知らう)		
	奈良・京都にある世界遺産を調べ、価値を考える		
	研修プラン、マップ作り		
	地形と産業、新幹線のルート地形		
	平泉中尊寺や藤原氏		
	山寺修行体験、文学歴史調べ		
	平和学習		
	奈良・平安の歴史学習、伝統文化学習		
	京都奈良の史跡、寺社と歴史の関係について学ぶ		
	歴史的建造物、歴史上の人物の活躍の場		
	歴史博物館の協力を得て学習		
	歴史上の施設(神社仏閣)の見学		
	町並み、文化の保存の実態を実際に見てくる		
	調べ学習レポート作成、新聞づくり		
	日本文化についてのテーマ学習		
	歴史探訪をテーマにグループで計画、班別行動実施		
	東京～京都間交通路と位置関係オリジナルガイドブック作成		
	会津の地形と産業		
明治維新までの会津藩について			
戦争や原爆のビデオ学習			
能、狂言の体験学習			

東海地区

教科名	(主な内容)	事前学習	事後学習
1. 社会	平和憲法の学習・平和学習		
	沖縄の自然・伝統文化・歴史の学習		
	出島に関わる歴史の学習		
	原爆投下に関する歴史的事実の学習		
	選挙について・衆議院と参議院の学習		
	政治の仕組み・役割についての学習		
	人権学習		
	第5福竜丸の学習		
	山・海の生活の違い		
	富士山レーダーの歴史		
	地図・路線図の見方		
	第2次世界大戦の学習		
	公民・歴史の学習		
	国会の仕組み・働き		
	裁判の仕組み		
	国際社会の中の日本・国際協調		
	日本の首都の政治・経済の学習		
	日本銀行についての学習		
	アイヌ民族・ハンセン病に対する人種差別		

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
1. 社会	東京大空襲に関わる教材を時期を早めて学習した		
	松代大本營の見学を通して終戦前の日本史を学ぶ		
	第二次世界大戦(近代、現代)		
	奄美、沖縄の自然、産業の事前調べ学習、基地問題		
	昭和館を訪問の事前学習として、東京大空襲の平和学習		
	沖縄戦や戦争の歴史についての調べ学習		
	大本營設立までの歴史的背景		
	第2次世界大戦の学習背景と結果と代償		
	日本と米国をはじめ諸外国とのつながり		
	ディスカッション「平和とは何か」		
	白馬地方の歴史(塩の道)		
	北海道、アイヌ歴史学習		
	江戸時代以降の琉球、沖縄の歴史		
	鎌倉大仏の歴史		
	福井県の文化歴史		
	被爆体験者の講話を聞くにあたり歴史上の事実を掘り下げる		
	核の問題について考えたり(原爆投下までの流れだけでなく戦後を含め)検討		
	JR・地下鉄の路線図による研修計画		
	キリスト教伝来以降の長崎の歴史を各班ごと調べ学習		
	国会議事堂(衆議院を見学)に関する基礎的な知識を学習		
	政治、歴史—学習したことを実地見学		
参議院国会特例プログラムに参加する			
自然災害(雲仙岳・水無本陣ふかえを見学し自然災害の力を体感)			
パラグアイ、ナイジェリア、英国、トルコ大使館見学の事前学習			
国会の仕組みと運営や国会の仕事について学習			

「国語」

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
2. 国語	法隆寺夢殿の学習		
	奥の細道の学習		
	万葉集、古今和歌集の学習		
	方言(京言葉)調べ、京言葉で話をしよう		
	万葉集で奈良の歴史に触れる		
	奈良・平安の和歌		
	古典文学に親しむ		
	和歌の鑑賞、文学作品とその舞台		
	紀行文、班新聞づくり		
	古文学習で活用する		
	京都観光スポット新聞づくり		
	「京の一句」俳句づくり、俳句会(ゲストティーチャー)		
	俳句、短歌、川柳の創作、高瀬舟の読解		
	古典文学の鑑賞		
	短歌、俳句を作り発表会(毛筆)		
	能、狂言について		
	修学旅行を詠もう(俳句、短歌和歌)		
	見学、体験地の文学作品学習		
	原爆詩(平和学習)		
	旅行紀		
	法隆寺を支えた木		
	班新聞、個人新聞づくり		
	後輩に伝えるパンフレット作り		
	パンフレット作り、礼状の書き方		
	狂言の鑑賞、古典芸能との触れ合い		
	修学旅行新聞づくり		
	修学旅行紀作成		
俳句、日記、作文			
しおり文集作り			

東海地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
2. 国語	アポの取り方、電話のかけ方		
	詩「挨拶」「原爆の写真に寄せて」「水 ください」の学習		
	依頼文・礼状の書き方		
	首里城に関わる読み物教材の学習		
	平和に関わる短歌の学習		
	まとめ・新聞作り		
	修学旅行の感想を作文に書いたり、俳句で表現したりする		
	ポスターセッション		

近畿地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
2. 国語	俳句を作り毛筆で書き、文化祭で展示		
	定型詩について基本を学ぶ		
	自作の和紙に思い出の俳句を作る		
	「ウミガメと少年」を使って国語的視点による平和学習		
	発表会実施と効果的な話し方の練習		
	伊江島トーク番組を作ろう		
	自分たちの地域と東京の違いを体験し報告文を書く		
	平和学習の一環で戦争文学を読む		
	平和のメッセージ制作、群読		
	炎を見る～赤き城の伝説		
	民家の方へ自己紹介のお手紙と礼状		
	遠藤周作の「沈黙」の紹介		
	東京大空襲に関わる教材を時期はやめて学習		
	修学旅行新聞の作成(俳句を盛り込んだ紀行文)		
	平和学習、文化祭平和劇の脚本づくりのための作文作り		

「特別活動」

関東地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
3. 特別活動	実行委員会を組織し学習行動計画の作成		
	目標作り、班別行動計画の立案		
	見学地の選定や旅行の決まりを話し合い中心の学級活動で		
	集団行動マナーについて		
	巨大立体地図の作成		
	スローガンを話し合う		
	班毎の見学コース作り		
	行動訓練やしおり読み合わせ等		
	クラスやグループでの自治活動		
	組織作り、生活指導、班行動の反省		
	グループ活動計画、話し合い活動		
	体験学習と他者との協力により物事を成し遂げる		
	仲間作り、集団行動について		
	集団生活について		
	円滑な修学旅行をするために		
	学年生徒会により計画立案、評価活動		
	リーダー指導、班活動、話し合い活動		
	組織作り、生活指導、班行動の反省		
	ルールやマナーについて		
	体験学習と他者との協力により物事を成し遂げる		
	集団活動を通し互いのよさの発見		
	交流で進路選択への意識づけ		
	広島平和公園で「平和のセレモニー」実施、帰校後感想発表会		
	クラス発表会全校発表会そして評価活動		
	スクラップブックによるまとめ		
	全校集会・学年集会・報告会		
	クラス発表会全校発表会そして評価活動		
新聞づくり、体験活動報告会			
挨拶文、礼状			

3. 特別活動	報告書作成、全体指導		
	修学旅行後の生活目標づくり		
	写真コンテスト、個人新聞づくり		

東海地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
3. 特別活動	班別行動・班活動		
	仲間づくり		
	東京ドームを貸切り、学年レクレーション実施		
	平和学習、報告会		
	進路指導(キャリア教育)		
	PCを活用しての情報収集と新聞作り		
	人権学習		
	企業訪問と働く人の喜び		
	震災と日本		

近畿地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
3. 特別活動	組織作り、(班編成、実行委員の選出、目標、決まり)		
	東京都内の文化・施設の調査		
	集団行動・生活のあり方について学習		
	班編成(男女混合班)や役割分担決定など通して仲間作り		
	コンピュータを使用し、見学場所の選定、調べ学習		
	8月6日の平和登校における反戦平和学習		
	民泊を通じて沖縄の文化、自然に親しむ		
	学年劇の上演		
	班別活動(体験作文、掲示物作成)、壁新聞作成		
	職業に関心を持たせ、職業調べを通して望ましい職業観を身につける		
	班別活動(コリアンタウン・大阪人権博物館)		
	自分の行く方、進路について考えさせる		
	クラスミーティング、自分の思いを自分のことばで話す		

「美術」

関東地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
4. 美術	壁画や構造美の見学		
	仏教美術、日本の美術(庭園・建築・仏像)		
	仏像から各時代の特徴調べ		
	古都の美術、日本の伝統文化		
	伝統工芸の漆器の加色体験		
	美術史・ギリシャ、ローマと天平		
	建造物、彫刻鑑賞		
	襖絵、天井画学習		
	有名な仏像や美術品を授業で取り上げる		
	世界遺産について		
	慶山焼き、手びねり体験		
	建築物と神社仏閣		
	切り絵によるしおり作成		
	ガラス細工、時計、オルゴール作成		
	箱根美術館の鑑賞法		
	建築物、柱、壁画鑑賞		
	スケッチと絵画制作		
	仏像画制作、鑑賞		
	清水焼の絵付け		
	美術品の鑑賞、宗教と美術		
	建築の特色、仏像の形式の学習		
	京都・奈良の美術や文化		
	日本の美発見		
	文化財世界遺産についてレポートにまとめる		
	伝統美術、仏教美術の鑑賞		
	日本美術の鑑賞、修学旅行ノート(しおり)表紙作成		
3日間の様子を絵巻方式でまとめる			

4.美術	風景画、伝統工芸体験		
	建築物、仏像の写真レポート		
	色紙に仏像を墨書して俳句に載せる		
	美術品、国宝の時代背景を学ぶ		
	思い出アルバム作成(写真、パンフレット、拝観券を利用して)		
	銅版レリーフ作成		
	日本の美である仏像彫刻について鑑賞		
	思い出の一コマを一枚に描く		
	ガラス細工作り、京扇子、水墨画制作		
	集めた資料を基に卒業制作		

東海地区

教科名	(主な内容)	事前学習	事後学習
4.美術	国会議事堂の建築美		
	西洋美術館の展示作品の事前学習		
	沖縄の伝統工芸		
	「平和学習資料ナガサキ」を使い学習		
	美術展鑑賞		
	「私と広島」というテーマで伝えたいことを作品化する。		
	吉野ヶ里歴史公園でのまが玉作り		
	修学旅行の感想画		
	お礼の絵手紙		

近畿地区

教科名	(主な内容)	事前学習	事後学習
4.美術	都内に「江戸切子」「江戸風鈴」体験の事前学習		
	絵手紙、アートガラスの制作		
	名瀬に移り住んだ「田村一村」の作品の事前学習		
	洲本市在住の陶芸家の指導で事前陶芸教室		
	アイヌ文様の作品作り		
	大塚美術館の学芸員から説明と解説		
	東山魁夷の鑑賞		
	沖縄で学んだコラージュを作成し文化祭で作品発表		
	切り絵テーマ「長崎をデザインする」		
	折鶴壁画作成と平和の思い整理		

「英語」

関東地区

教科名	(主な内容)	事前学習	事後学習
5.英語	英語劇、日本文化紹介(DVD)		
	現地校交流会準備		
	京都で一番好きな所を英語で先生方にインタビュー		
	外国人に京都の印象、体験を尋ね帰校後発表会を実施		
	質問を考え、英作文、手紙指導		
	旅行中に使える一言英会話集を作成(挨拶、コミュニケーションの表現)		
	国際交流の方法指導		
	外国人へのインタビュー		
	外国人とのコミュニケーション		
	体験作文(3日間を英語で)		
	国際交流、国際理解		
	英作文、手紙指導、帰校後英語スピーチ		
	交流の輪を広げよう		
	英会話と報告レポート		
	市の紹介を英語で伝える		
	京都・奈良の思い出を英語で表現		
旅行報告文作成			
日本の伝統文化の紹介			

東海地区

教科名	(主な内容)	事前学習	事後学習
5.英語	メール文章を英文で発信		
	外国大使館での英会話による取材		
	教科書「サダゴストーリー」の学習		

5. 英語	修学旅行の思いでの英作文		
-------	--------------	--	--

近畿地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
5. 英語	外国人旅行者のピースメッセージの交換		
	大使館を訪問するためその国の言語、歴史、文化など学習		
	であった外国人との会話		
	復路の機内では飲み物注文を英語で話しかけてもらうようお願いする		
	修学旅行記を英語で書く 体験をスピーチプレゼンテーション		

「道徳」

関東地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
6. 道徳	公衆道徳、マナー指導		
	TPOに応じた言葉遣い		
	座禅の心得、日本人の自覚		
	文化財保護にかける人々の努力		
	日本の文化について学ぶ		
	マナー、ルール、礼儀作法		
	文化財保護にかける人々の努力		
	先人の業績学習		
	公衆マナー・集団生活の意義		
	伝統や文化の継承 / 発展		
	文化遺産を守る		
	修学旅行で何を学ぶか、何を身に着けるか		
	公共心、思いやり		
	自覚、文化の継承		
	サダコと折り鶴を取り上げ平和学習、今すべきことは		
	自主、自律、規則尊重		
	木の命、木の心(宮大工、常岡氏のことはより)		
	見学等社会ルールの体験		
	阪神淡路大震災を通して命の大切さ		
	集団生活の向上、役割と責任、公德心		
	個性の尊重、人はそれぞれ見方、考え方が異なる		
	仲間への思いやり		
	集団行動を通し、健康や安全、集団行動、公衆道徳の指導		
旅行まとめ			
心遣いに感謝する心を持つ			
宿泊先への礼状、写真を送る			
郷土愛について(日本人のふるさと京都より)			

東海地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
6. 道徳	平和学習		
	東京タワー建設時の苦勞		
	公德心・社会秩序		
	プロジェクトX「東京タワー」を視聴後情熱・生き方を考える		
	生命尊重		
	集団行動・規範意識・思いやり		
	自主・自立性の学習		
	仲間づくり		
	被爆者の講演を聞く(人権)		
ユニセフについて、人権集会で発表			

近畿地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
6. 道徳	新庄地震発表会に向けて防災教育に取り組む		
	ファームステイでお世話になるので礼儀作法		
	民宿に泊まることで敬愛の気持ちを学ぶ		
	集団や社会との関わりについての意義		
	グループ活動を通じ友情を深め、より良き仲間作りをする		
	様々な場面でのルールやマナーを身につけさせる		

6. 道徳	人権学習の一環としてアイヌ文化について学習する		
	事前学習東京タワーを建てた人々の苦労話のビデオ視聴をする		
	自然の美しさ、それを愛護し、感動する豊かな心を持つことの大切さを学ぶ		
	沖縄戦について歴史を学んだり、レポート作成、交流をする		
	基地問題と沖縄～非暴力と阿波根昌鴻～ビデオ視聴と学習		
	被爆地である長崎で被爆者から直説現場に案内説明		
	戦争の悲惨さと人類に対する尊敬・平和の大切さを考えさせる		
	生命の大切さ、平和人権に対して事前事後学習		
	平和教育について「ふるさと」の歌練習		
	日本人としての自覚を持ち国際視野に立ち平和と人類の幸福を考える		
	TDLの「カスト・ディアル」と通し勤労の尊さを学ぶ		
	ホスピタリティについて考える		
	友人の大切さや仲間作りについて学習		
	礼状の作成		

「音楽」

関東地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
7. 音楽	能体験		
	現地集会での合唱曲作り		
	能の鑑賞学習、DVDによる視聴		
	合唱交流、合唱曲(お礼の歌)		
	狂言の学習		
	広島で献花のときの合唱練習		
	ヨサコイソーラン、学年歌		
	伝統音楽についての学習		
	見学地、訪問地で合唱披露		
	ハツ橋と音楽のつながり		
	マリンバコンサート実施し、被爆体験を聞く		
	鑑賞勸進帳、五条大橋、歌舞伎		

東海地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
7. 音楽	「平和の鐘」を平和公園で合唱		
	民宿での合唱披露		
	沖縄の民謡(島詩)について・三線についての学習		
	平和セレモニーでの合唱		

近畿地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
7. 音楽	学年全員による合唱活動を取り入れて授業で取り組む		
	平和コーラスとの交流のための歌練習		
	三線に実際に触れ文化と演奏する能力を身につける		
	沖縄の歌を2年の文化祭で発表して、修学旅行のセレモニーで全員合唱する		
	アイヌの楽器(ムックリ)の制作と演奏		
	卒業生が作詞作曲した長崎原爆のテーマ曲を事前に練習し全員合唱する		
	沖縄音楽や出身のミュージシャンの音楽に触れる		
群上太鼓(全員)			

「技・家」

関東地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
8. 技・家	伝統技術の粋を結集した建造物へ携わる名工の生き様、思いを紹介		
	インターネットによる情報収集		
	建築物の構造		
	PCで調べ学習、しおり表紙作成		
	雑巾手縫い		
	京都、奈良、大阪などぞぞ作り		
	行程表や新聞をCPにより作成		
	修学旅行の報告書作成		
	PCでプレゼンテーションソフト活用		
	修学旅行紹介をパワーポイントで発表、報告する		
	京都ナビPC入力、報告書をPCで作成		
	PC利用画像貼付作文集制作		
	旅行記プレゼンテーション		
見聞したこと、まとめをパワーポイントで説明			

東海地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
8. 技・家	インターネットによる情報収集		
	PCでプレゼンテーションソフト活用		
	沖縄特有の食材や料理について学習		

近畿地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
8. 技・家	郷土料理について学ぶ(体験学習)		
	食育について		
	体験学習発表会の実施		
	風鈴の絵付け、雷おこし作り体験		
	アロハシャツを制作し旅行に着て参加する		
	PCを利用した調べ学習		
	沖縄修学旅行のオリジナルDVDの作成		
地域の食材とその料理			

「理科」

関東地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
9. 理科	京都(関西)と関東の気候の違い、盆地の気候		
	環境学習		
	果樹農家体験		
	防災未来センター見学		
	新幹線の速さ、慣性の法則体感		
	関東、関西の気候、風土の違い、植物と火山		
	信州、上高地自然観察		
	奈良の自然		
	会津地方の植物、火山活動		

東海地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
9. 理科	海の生き物		
	地震発生の仕組み・進捗分布図の作成		
	放射能についての学習		
	「物質の変化」の実験を東芝科学館で見る		
	新幹線・TDL(乗り物)での「運動の法則」		
	ジェットコースターの運動エネルギー		
	天気の変化		

近畿地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
9. 理科	植物の「生殖についての実践学習」		
	八島が原湿原にて環境学習		
	清里での天体観測		
	有珠山の噴火と被害		

9.理科	沖縄の自然、サンゴ生態、温暖化		
	奄美固有の生き物について学習		
	四万十川の自然と四万十川までのバス移動における速さと時間と距離の関係		
	富士洞窟体験のための地層・火山・岩石等の学習		

「保健体育」

関東地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
10.保健体育	スキー指導、安全指導		
	集団行動、隊形、整列、移動		
	ヨサコイソーラン		
	集団行動		
	病気と怪我の予防		

東海地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
10.保健体育	沖縄エイサーの体験学習		

近畿地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
10.保健体育	スキーの事前指導		
	安全指導		
	自然との関わりとしてのスキー学習		
	体力づくり		

「数 学」

関東地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
11.数学	五重塔の高さ計算		
	美術品の白銀比から比率の計算		

東海地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
11.数学	特記事項なし		

近畿地区

教科名	(主 な 内 容)	事前学習	事後学習
11.数学	特記事項なし		

修学旅行全般について、お気づきの点 <平成20年度実施状況等調査から>

「輸送等」

関東地区集計結果

輸送等 (関東地区)	・ 関修委で安く実施でき有難いが、一方的に時期が決定されるのももう少し柔軟に。
	・ 日程が学校の自由にならないのが一番のネックだが、仕方ない。
	・ 連合体利用には時期と出発時間にかなり制限がある。
	・ GW明けは指導・準備がしづらく検討を。
	・ 実施時期・新幹線の時間を自由に選択できると良い。
	・ 連合体利用は経費の軽減に魅力を感じるが日程の制約を受けるため見合わせてしまう。JRは中学校団体には乗車券同様、新幹線特急料金にも割引を適用してもらいたい。
	・ 修学旅行の都合で春季大会が早まった地区があった。県・地区レベルで調整を。
	・ 7月実施は水分補給、食事等の面で注意が必要。サッカー・陸上等大会日程と重なることがあった。宿泊施設と本校生徒数の関係。
	・ 出発前日が休・祝日は避けたい。
	・ ここ数年7月実施が多い、少しずらして欲しい。
	・ 実施日が割り振られるので学校の希望通りにならない。(本校は6月で助かっている)
	・ 部活動の大会にあたらぬ工夫をお願いしたい。
	・ 6月実施はある程度指導の余裕があったので良かった。7月実施は、部活動の調整機関と重なり難しさを生じるため避けたい。
	・ 年間の学校行事を決めるに当り、日程の希望が反映されない(仕方ないのかもしれないが)のが不都合。
	・ 連合体割り当てが土日の場合、他団体での公式日程、土日の体験学習場所の確保等苦労した。
	・ 日程・旅程等を学校の都合で選べる冬の実施が、個人的には良いと思う。
	・ 少人数校でも連合を組まず単独で企画できるよう業者に働きかけを。
	・ 一般車両利用は避けたい。
	・ 新幹線同一車両に2校がはいれる機械的な振り分けは問題。
	・ 新幹線車両の喫煙のにおいが気になった。15・16号車の利用で管理上良かった。
	・ ダイヤ改正により新幹線が上野乗換えとなり不便。
	・ JRの座席割り各校にトイレが割り当てられるよう設定して欲しい。複数校の共有は指導面で難しさがある。
	・ 水戸・上野間、日立・上野間の時間短縮を。
	・ 東京駅まで時間がかかる。始発での出発、帰りも遅いのはきつい。
	・ 昨年度より費用が値上げされた。同一市内の学校が重ならない日程にして欲しい。
	・ 帰路新幹線も200名以上は同一列車での乗車を。
	・ 往復とも待ち時間が少なく、スムーズに移動できた。
	・ 新幹線車中は他校間とのスペースが十分取られておりトラブル防止に役立った。
	・ 新幹線の一般乗客との混乗には大変気を配り、少々苦言をいただいた。
	・ 新幹線の一般乗客との混乗は生徒も職員もストレスがたまる一方である。専用列車にならないか。
	・ 新幹線の隣接する学校を事前に知っておきたい。班別行動でも団体料金が利用できると便利。
	・ 新幹線乗降駅は希望すれば新横浜でも可能か。
	・ 東京駅での新幹線乗車までの待ち時間が長い。
・ Cコースの車両は専用とし一般客と同席にならないようにしたい。	
・ Cコース時間帯の改善を。東京駅・京都駅での待ち時間が長いのを改善したい。	
・ 定期混乗のため車内での活動が制限されたクラスがあった。	
・ 特急料金50%割引は有難い。早く計画でき、よい宿舎を選択することが可能になり大変良い。	
・ JRの割引引き率50%は低すぎる。	
・ 1日目、神戸防災センターと淡路島・活断層見学を実施。生徒・職員とも満足した。(京都・奈良は従来通り見学)	
・ 京都連泊が不可となる業者が多いのは何故か。	
・ ホテル・旅館の選定を公平にして欲しい。食事メニューに工夫を。	
・ 業者の担当者によってサービスや企画に差が大きい。	
・ 宿泊・旅行社の取扱い料金等費用が高い。	
・ ビジネスホテルの利用で、シングルにエキストラベッド利用の2人部屋があり、利用した生徒から不満が出ていた。	

東海地区集計結果

輸送等 (東海地区)	・ 関西方面にも優遇措置をお願いしたい。(連合体輸送になっていない)
	・ 連合体輸送だと、日時が指定されてしまい、学校の都合に沿わないことがある。
	・ JRの対応が厳しくなっている。中学生も一人の乗客であるなら、あれこれ注文をつけるのはいかなものか。
	・ 費用が高くなってきている。
	・ 新幹線の申込が早すぎて、飛行機との調整が難しい。
	・ JRの指定席が喫煙席の場合がある。禁煙教育・環境面で配慮してほしい。
	・ 帰りの「こだま」名古屋まで3時間はきつい。
	・ 新幹線列車の他校との隣接するケースは避けてほしい。
	・ 移動バスを利用したので、生徒の把握が容易であった。
	・ 航空機の時間・機種が直前にならないとわからないのが困る。
・ 3日目神戸・川越の帰路バス移動3時間は、道路事情で困難な状況が生じた。再考を要す。	

近畿地区集計結果

輸送等 (近畿地区)	・航空機利用の修学旅行は、費用面、大人数の生徒の受入などを考え、今年度までとした。
	・交通費など費用が高額になり家庭への負担が大きくなってきたので検討が必要。
	・府の旅費規程の改編で非常にやりにくくなっている。
	・200名の集団での航空機使用については空港での手続きなどで他への迷惑を含め課題が残る。
	・沖縄は人気のある場所なので、帰りの航空機が遅い時間帯の便になり、生徒の下校がおそくなった。
	・新幹線の座席に一般の方が入り、生徒だけの座席を一括して取るのが難しくなってきた。
	・飛行機の集約化ができればありがたい。
	・集約列車を利用したため希望に添わない日程となった。連休明けの土、日ということで保護者からも疑問の声が多かった。
	・新幹線と継走臨への乗り継ぎの時間をもっと短縮できないか。ホテル代ももっと安価にならないか。
	・小規模学校で一人当たりの旅費負担が増加し、場合によっては他校との合同修学旅行も考える必要あり。
	・航空運賃の高騰により費用が増加、学生割引を考えてほしい。

「企画・実施等」

関東地区集計結果

企画・実施等 (関東地区)	・今年度、能体験はなかなかできない体験でとても良かった。
	・体験を主体とした修学旅行のプランを知りたい。
	・京都等での体験学習が種類ともとても充実してきた大変良い。同じ中学生との交流体験プログラムがあると良い。
	・京都での雅楽等の見学体験料金が高すぎる。
	・大阪を修学旅行地に取り入れたかったが、予算オーバーのため断念。大阪商人体験等良いと思うが、関東からは予算的に厳しい。
	・今年度体験学習を取り入れ、グループ毎の取組みは短時間の中で貴重な取組みができ、生徒にとっても達成感のある旅行であった
	・修学旅行生の多い5・6月体験学習の受け入れ先が少なく、受け入れ態勢を考慮して欲しい。
	・体験学習・班別活動を取り入れ、生徒主体の有意義な修学旅行になっている。
	・体験活動をより深める手だてを探っている。
	・旅行的行事は教科学習と違って体験的学習が出来るので貴重なもの。今後も大切にしていきたい。
	・班別活動をメインとし体験学習を取り入れたが、体験内容・費用・時間について今後課題が残った。
	・体験学習をボランティアで受け入れてくれる所がほしい。体験費用は高い、3千～5千円の負担は大きい。
	・京都の歴史だけでなく、産業や地域の生活の中に入った体験活動ができるとよい。
	・4年前から関西に変更し、事前学習等多様な学習が展開できる。日本の文化、地域の人たちとのふれ合いを通して貴重な体験をすることができている。
	・体験学習が充実しており貴重な経験の場となっている。
	・今年度、体験学習を大阪で取り入れたが、日曜日のため受け入れ先が少なく苦労した。
	・農業体験を中心に実施、今後の生きる力が育っていくと確信する。
	・スポーツ体験は種類・内容とも充実してきたが、地元の人たちとの触れ合いを通しての活動は今一歩と感じる。
	・農業体験は非常に有意義であった。バスでの移動は日程が自由に組め、クラス単位であり親睦を深めることにも役立った。
	・事前・事後指導も含めて考え計画・実施しており、本校としては充実した取組みとなっている。
	・シルバーガイドの活用により班別活動など大変役にたった。さらに人員増など活用しやすい環境整備を。
	・班別学習時にシルバーガイドの同行をお願いしたが大変好評であった。
	・京都シルバーガイドの料金がもう少し安いと利用しやすい。
	・シルバーガイド(生徒1人1,569円)は好評
	・小規模校のためジャンボタクシーでの移動、川床料理、北山杉に囲まれた新緑など素晴らしいことばかりだった。
	・スカイガイドは人との交流もあり生徒に好評であった。
	・タクシー見学は運転手との交流や見学も充実し、生徒たちは満足していた。
	・4月に旅館の宿泊料金や弁当代の値上げがあり追加集金を行った。班別研修のタクシー利用は生徒に好評であった。
	・京都市内宿泊が難しくなっているため3日間の企画がたてづらい。
	・年々費用が値上がりしている。専用電車を利用すると、大会日程が重なった場合キャンセルできないので、県大会出場の生徒はJR新幹線代金を別に支払うという理不尽。
	・経費をできるだけ抑える方策があれば教えて欲しい。
	・旅行社の取扱料(11%)は高すぎる。宿泊費も団体利用にしては高い。
	・費用が全体的に上ってきていると感じる。3年次で予定を組むのが困難になってきていると感じる。
・2泊3日の旅行としては高額、実際に費用が支払えず不参加となった生徒がいる。	
・今後経済的・学校行事等の面で冬季の計画も考慮する。	
・交通費の値上げに伴い生徒一人の旅費額が大きいため、今後コースを大幅に変更しなければならない状況がでてくる。	
・交通費がもう少し安価になるとよい。旅館・ホテルの質の向上。	
・保護者負担が多すぎる。旅行会社の取扱い料金が高く改善できないか。	
・費用が高額となり、各家庭からの毎月の集金や個々の積み立て金額に神経をつかわなければならず、少し負担に感じる。	
・一般の旅行に比べ、食事・宿泊施設を考えると費用が高すぎるのでは。	
・旅行費用(鉄道・バス等交通機関、宿泊施設等)について保護者負担が大きく、さらに特別に低価格の設定ができないか、諸施策の整備充実を要望。	
・保護者の負担軽減を図りたい。障害をもった生徒に対応した宿泊地が少なく選択幅が狭まる。	
・入札でなるべく費用を抑えようとしているが、コストがかかりすぎる。一般旅行と比べ、家庭の理解を得られなかったり、未納につながっているのではないか。	
・宿舍が毎年変わるため、下見が必要となっている。希望の宿舍を変更しないで済むようにしたい。	

・班行動(6～7名)も団体扱いで欲しい。
・宿泊施設が希望に合うところを見つけるのが難しい。
・世界遺産に指定されている地を今後学習地として活用していきたいと考える。
・担当学年の修学旅行に対する目的の持ち方によって日程・行動が変わる。年度ごとの継続性を持たせるのであれば、学校として修学旅行の目的をどうあるべきかをしっかりと検討する必要がある。
・学年独自の企画で毎年変わるのではなく、学校として数年先を見通したスタンスで、下見等準備の軽減を図る必要がある。
・5月下旬実施で年度当初忙しかったが、職員・生徒ともよく動いてくれた。
・今回の日程・コースはよく組まれておりとてもよい修学旅行であった。
・班別行動時の生徒の意識高揚とチェック体制。
・修学旅行の教育的意義をあらためて感じた。
・「エコ」を意識した取組みを行いたい。
・奈良・京都は生徒の学習意欲を向上させる上で効果がある。
・大規模校の宿舎確保は限定されてしまうという課題がある。
・新幹線の座席にゆとりがあると、具合が悪くなった生徒や生徒指導の対応が出来るのでプラスルファの座席を確保願いたい。6月下旬～7月実施が連続しないよう配慮を願う。
・教員の負担が大きくなっている。(家庭教育力とモラルの低下)
・日本の文化である京都・奈良の歴史を直に感じられることは生徒にとって意義深い。
・今回天気にめぐまれ良かった。新幹線の時間も良い。
・7月実施が2年連続した。小規模校から学期末に入れられたとの思いが強い。新幹線車両の割り当ては、帰路バス利用校は乗り場近くに設定して移動に配慮を。
・奈良をどう取り入れるか工夫が必要。
・有意義な時間を皆と過ごせるよう、これからも努力していきたい。
・奈良・京都の見学地で改修工事が多かった。
・中学3年生は反抗期を抜けて社会に次第に目を向ける時期にあたり、現実をひとつでも多く触れる必要がある。荷が重いかもしれないが本校では、戦争や平和について自分で課題をみつけ、自分で調べて伝える修学旅行にするために総合的な学習の時間をフィールドワークとして設定した。
・生徒数増加により宿泊施設の選定が難しい。
・宿泊地が京都から離れていたため見学時間にロスが生じたがホテルは大変快適であった。早い出発時間であったが、京都着後の行動が有効に進んだ。
・奈良に宿泊することで見学時間が多く取れ、奈良で有意義な時間が確保できた。
・安全面に留意したゆとりある日程、日本の歴史・文化の学習につながる企画、快適な宿舎であった。
・修学旅行の時期が集中しすぎ、緩和できないか。
・修学旅行前夜、京都で通り魔事件があり心配。治安の確保が一番の課題であった。
・清水寺等混雑する場所での安全確保。
・奈良に1泊したおかげで、多くの見学地を見学することができ有意義であった。
・5月の休日に当たり見学先・バスが込み合い、予定通りに進められなかった。
・旅行会社無しで実施している学校の有無。宿泊施設として、独立行政法人、青年の家等の利用は可能か、また実施している学校の活動内容は、
・修学旅行シーズン、見学場所がかなり混雑する。解消する手段はないのかと思う。
・銀閣寺の修復工事により予定通り見学できなかった、事前に周知して欲しい。
・2年生の1月から計画や班作りを始めたが、4月の異動により3年のスタッフが変わり情報を共有するのに苦労した。
・バスガイドの態度面に問題あり。お客に対する態度ではないほどひどく驚いた。
・修学旅行は本当に必要か、積み立てや集金に職員が多大な時間が費やされる。また、体験学習を取り入れるにしても体験先の開発等勤務外の時間が多すぎて負担である。
・修学旅行の意義について再考を促す時期に来ているのでは。個別の要求が多くなる中で、教員が多数の生徒を引率し宿泊を含む研修を一律に課すことは無理があると思われる。
・専用列車は生徒も掌握し易く大変便利。目的地までの所要時間が短縮されるとなおすばらしい。
・授業時数を確保しなくてはならない中、事前・事後学習の準備・まとめの時間配分が気になる。
・タクシー利用による班別行動は学習面・安全面で有効であった。反面、費用が多かった。
・班・グループ行動の形態はどのようなものがあるか。本校は1日目・生活班、2日目テーマ別グループ・3日目クラス別…。他に効果的ら方法があればアドバイスを。
・日程が1年次に決定する理由は理解できるが、学年スタッフが不動といかないのが残念。選定理由を次の学年にわかりやすく引継ぎできればと思う。
・時期により混雑するため、十分な検証活動ができなかったり、なかなか難しい。
・新幹線座席決定後の照会について、情報提供されるよう交渉していただきたい。
・家族との旅行が増えているとはいえ、まだ中学生にとって同年代と寝起きすることはとてもよい思い出となり継続してほしい。
・授業・他分野との関連の強化が必要。総合学習で取り組む際の年間計画の位置付けと他の学習内容との関連付けが重要。
・事故等による器物破損やケガ等に対応するための契約内容について旅行業者と事前に確認が大事。
・安全面の配慮。列車の乗り換え時間が短い、本校では乗下車の練習をした。
・中学校の旅行先を考慮して高校側が重複しないよう行き先を設定している。小中高の連携・情報交換が必要。
・修学旅行の意義、目的が変化中、従前の内容にとらわれすぎているのでは。
・情報化が進む今の現代に、自分の足で歩き、目で見える学習の意義は大きい。また人間関係づくりからも貴重な活動である。
・生徒数が多く、安全面への配慮を特に重視している。
・少人数化に伴い業者選定面で苦慮している。
・以前チャーターできたジャンボTaxiがとれずに困った。しおり作成上、座席割を早めに。

・関西以西利用は今後検討したい。

東海地区集計結果

企画・実施 (東海地区)	・長崎での実地学習が平和意識の高揚となった。
	・班別研修・分散学習等の安全面確保。リーダ育成の重要性。
	・企業体験を前年度から取り組むことで、余裕を持つことができた。
	・学級全体での事前・事後指導の時間が少ない(確保が困難)。
	・東京都内の研修先のデータ蓄積があると良い。
	・東京地方裁判所の待ち時間が長く、予定がくった。
	・ミュージカル観劇を取り入れたが、費用高騰になった。
	・修学旅行費の未納者への対応に苦慮する。
	・家族旅行の増加に伴い、修学旅行のあり方の見直しが必要である。
	・小規模校の抱える様々な問題。
	・安全確保のため、下見や事前指導を十分行う必要がある。
	・内容的にマンネリ化しているため、新たな企画提案が望まれる。
	・修学旅行に関わる意見等、保護者・生徒との意見交換を行いたい。
	・平和講話・ハンセン病に関する現地学習でより理解が深まった。
	・沖縄は平和学習に最適であるが、費用が高額となる。
	・戦争体験者の話を聞くことにより、平和の意義を考えることができた。
	・人権平和・伝統文化・自然・環境を学ぶ場である。教科学習と密接に連携をとるとさらに効果的。
	・実施時期が早いと、人事異動や学級経営の面でハードである。
	・体験学習の受け入れ先が熱心で感謝している。
	・学校の中では、学習できないことを学ぶことができた。
・修学旅行のシーズンの混雑に関わり、実施時期の再検討。	
・修学旅行費の限度内の計画がだんだん困難になる。	
・秋葉原事件のような事件への安全確保が非常に困難。	
・体験学習にかかる時間確保が難しい。	
・TDLは、引率者の入場料を免除できないか。または、割引できないか。	
・修学旅行が学習の一環であることが、薄らいできている。本来の意義を見直す時期。	
・体験的な学習で新たな発見や感動を味わわせることができた。	
・全国学力テストの影響を受けた日程となった。	
・総合的な学習の時間の削減・思い出の共有の観点から、ガイドによるクラス単位の修学旅行でも良いのでは。	

近畿地区集計結果

企画・実施 (近畿地区)	・体験学習を中心に行っている。連泊で近場が良いと考えている。中身重視の体験学習を考えている。
	・集団で生徒を引率することの難しさを感じる。部活動の試合と重なると保護者も部活優先に考える。
	・農村体験が増えてきており早くからの予約が必要。学年の状況を知った上で予約システムがほしい。
	・体験学習を通して第一次産業の経験ができた。また、被爆者からの聞き取りを通し平和について深く考えられた。
	・大阪府の旅費の条例改定で食事代が自己負担、下見費用の捻出等課題が残る。旅費の関係上行く先検討も必要。
	・平和学習、人権教育について班を中心とした学級学年の集団作りに取り組めた。自然体験学習も新鮮で好評だった。
	・個人でできることでなく、集団でしかできない内容を教えないと修学旅行の意義が薄くなる。
	・生徒が真剣に事前学習に取り組んだ成果で修学旅行では規則を守り全員楽しく参加できた。
	・次第に高額、お遊びに流れる傾向が見られる。修学旅行を意義あるものとして企画していく必要がある。
	・体験学習や平和学習と総合学習と絡めて取り組んでいきたいが、マナー学習も必要だ。
	・関西には3つの空港があり、どこに振り分けられるかなかなかきまらず不便。
	・体験学習を取り入れたことで、充実した旅行となり、学べた。現地の人との触れ合いがとても良かった。
	・関西圏では数少ない伊豆高原の体験学習で下が、自然の中で存分学習でき好評だった。
	・目的を自覚させ、相応しい事前、事後学習をさせるため、指導する側の姿勢が大切。
	・私服の旅行生を見かける。レジャー化傾向が気になる。学習の延長という心構えが大切。
	・沖縄旅行の一番の目的は平和学習と考えるが、年々態度が悪くなっているように思える。修学旅行の意義を考えて。
	・生徒が自主的に行う活動に意味があるのに、デイズニランドについては保護者の要望も多く、検討が必要。
	・企画の時点でいかに学習成果を上げられるよ企画するかが難しかった。学校独自のものを作り上げねばと考えている。
	・東京で生徒が郷土の産物のPR体験ができるのが場所を知りたい。
	・修学旅行が業者の修学旅行産業化していく傾向があるのが気にかかる。
・2日目に民泊を取り入れた。沖縄の文化や生活に直に触れる事ができ人間関係のあり方やマナーを身をもって学べた。効果大。	
・以前、都内自由行動をさせた時期もあったが、調べ学習等充実、近年安全確保のため制約が多くなって困っている。	
・台風接近で実施が中止で悩んだ。JRが運行されている場合は実施となる。	
・4月12日出発。生徒の準備も意識も十分でない中で、日程をもう少し考慮してほしい。	
・地方の学校で、観劇など質の高い文化に触れさせたい。しかし、良いものは金額がかかり、限界を感じる。	
・体験学習を採用するので土日を含む行程に希望通り計画が立てづらくなるので配慮を希望する。	
・自分たちで計画し実施できたことは、一部分の体験ではあったかもしれないが一生大きな経験として残る意義深いものであった。	

まとめ

新しい学習指導要領のもとでは、学校行事(修学旅行)について「目標をしっかり持たせること、各教科との関連を図った指導を実践すること」等述べられているが、今回の課題調査においてはこの点もふまえて、修学旅行と各教科との関わりについて詳細に調査する。

修学旅行で体験学習を取り入れる学校が年々増加する傾向が見られ、昨年度の78,7%から今年度は81,8%となった。今後は取り入れて行きたい、という学校まで含めると約90%に及ぶ。農山村における農業体験をはじめとして、各地域の伝統文化に関するものや、地域経済に関するものなど様々な分野に渡っての体験活動があるが、学校それぞれに目標・ねらいがあり有意義な取り組みが見られる。

教科等との関わりについて

やはり圧倒的に「総合的な学習の時間」で位置づけている学校が多く見られる。新学習指導要領によれば、今後「総合的な学習の時間」の減少、あるいは、この時間が職場体験等に使われることも考えられ、修学旅行への取り組み時間が限定されてくることも懸念される。

そんな中、本調査が「各教科でどのような取り組みが行われているのか」学習内容について調査した結果を見ていくと学習計画を立てていく上でも参考になるのではないかと考えられる。

学習内容については、行く場所により、それぞれ異なった特徴があるので、生徒に期待する目標や学習内容も異なるが、対比して見ていくと興味深い。

特に、社会、国語、美術における学習内容は修学旅行の目的と一致するものが多く、多くの分野で授業に取組まれている。反面、関連が薄いと思われた教科についても工夫することによって学習効果を上げていることが学習内容からうかがえる。

授業時数の少ない道徳や特別活動の時間の中でも、修学旅行で実践的な態度、意欲を育てる上で欠かすことのできないものとする。取り組み時間が少なくなって、生徒の主体性を発揮できる時間が少なくなった、ということのないよう各中学校で一層の充実を図れるよう期待したい。

修学旅行全般については

5～6月の修学旅行が圧倒的に多く、全体としても約85%の学校が集中している。これが関西、特に京都に集中することになると宿泊旅館等決定するのも大変難しく、連泊も難しくなっている。新幹線利用についても、生徒数減に伴い、かつてより多数の学校が1つの列車に乗車することとなり、トイレ利用等使い勝手が悪くなった。といった意見もある。ただ、いろいろ状況も変化する今、かつてはどうであったということより、社会の変化に対応した考え方を学校でも取り入れることは、今後ますます重要である。

現在は班別行動をメインとして、体験活動を入れている学校が多くなったが、体験内容や費用、時間などのについては今後さらに検討も必要である。

平成20年度研究調査報告
修学旅行の実施状況
修学旅行の課題調査「教科等との関わり方について」

平成21年3月

財団法人 全国修学旅行研究協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-6-8

TEL 03-5275-6651 FAX 5275-6653

E-mail shuryo@h2.dion.ne.jp

URL <http://shugakuryoko.com>